

令和7年度 学校評価報告書

令和7年2月12日作成

中期目標	重点努力目標(評価項目)		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受け)
個別最適な学びにより「確かな学力」と「協働的」な育成を図る	問題解決的な授業づくりの推進	・問題解決的な単元構想を工夫する。 ・かかわり合いと「ふかめポイント」を明確に位置づけた授業モデルを推進する。	B	B	問題解決的な授業づくりをすすめるなかで、子どもの育ちを確認できた。授業モデルの推進については、「ふかめポイント」を中心とし、今後も充実を図りたい。 「わかる授業」のために、工夫をしてすすめることができた。タブレット端末の有効活用については、さらに研修を通して向上を図りたい。	A	・子どもたちは温かな雰囲気の中、落ち着いて授業に取り組んでいる。「A」評価でよいのではないか。 ・タブレット端末を使いこなす子どもたちの吸収力に感心する。一方で、字を書くことも大切にしてほしい。	★子どもたちが話しかけでなく聞き方も大切にしながら、かかわり合って学びを深められるよう、更なる授業改善に努める。 ★日々の授業の中でよりいっそタブレット端末の有効活用を図り、個別最適な学びを推し進める。
	わかる授業の工夫と個別最適な学びの実現	・板書、発問、教材を工夫し、わかる授業を推進する。 ・タブレット端末を有効活用し、指導の個別化と学習の個性化に生かす。	A					
	命の尊さと人権に対する意識を高める取り組みの充実	・学活・道徳の授業を工夫してすすめる。 ・食物アレルギー対応や救急法訓練の研修を工夫し、避難訓練に実効性をもたらせるよう工夫してすすめる。	A	A	子どもの命を守るためにさまざまな研修や避難訓練等の取り組みを充実させることができた。 1~6年の縦割り班活動を新たに取り入れたことで、異年齢集団で活動する場が増え、各学年に応じた関わり方や役割を体験するよい機会となっている。 いじめや不登校の未然防止については、生活アンケートに加え、日頃の観察、職員間の情報交換を通して、児童一人一人の変化をいち早く把握し、迅速に対応することに努めている。 組織的な対応については、より効果的な方法を検討していきたい。	A	・通学班登校の様子を見ていると、上級生がよく全体を見ている。 ・教室に入ることが困難な子どものために、中学校のように、気楽に通える居場所があるとよい。 ・家庭の問題から子どもが不登校になることもある。学校と地域が連携して対応にあたれるとよい。	★異年齢集団活動の機会を広げ、上級生の主体性や思いやりの心を育んでいく。 ★困り感のある子への対応をより充実させるため、地域や関係諸機関との連携をより深めていく。
命の尊さに対する意識の向上を図り、互いの認め合う温かな学級・学年経営に努める	互いを認め合う温かな心の育成	・互いを認め合う態度を高めるための学活・道徳の授業を工夫してすすめる。 ・異年齢集団活動を積極的に取り入れ、工夫してすすめる。	A					
	いじめや不登校の未然防止	・hyper-QUや生活アンケートを効果的に活用した見取りと組織的な対応をすすめる。 ・生徒指導を機能させた授業づくりを推進する。	B					
	校区を愛し、校区を誇れる郷土学習の推進	・150周年事業等を効果的に取り入れた生活科及び総合的な学習「ふくおかタイム」を開く。	A	A	150周年に向けて学習をしていくなかで、児童が学校や校区について知ろうとしたり、愛着をもつたりする姿が見られた。 小中の連携に関しては、情報交換や相互交流のあり方に改善の余地がある。 メール配信や学校HP等を活用した情報の発信を積極的に行なうことができた。今後ももっと保護者や地域に学校を知つてもらうように努めたい。	A	・周年記念が上手に授業と結びつけられていた。校区を愛する心が育まれた。 ・メールやHPの活用は保護者から好評なので、ぜひ継続してほしい。小中で連携して行なう活動も、知らせてくれば地域の人が参加できる。	★今後も地域の方と交流する場を設定し、地域と連携して郷土学習を推進していく。 ★メールやHPを活用した情報発信に加え、さまざまな機会を通して、保護者や地域との双方の受信・発信を進めていく。
と家庭及び地域との連携・協働のもと開かれた学校づくりに努める	系統性を重視した小中一貫教育の推進	・中学校との連携を強化し、諸活動の工夫と見直しを図る。 ・コミュニティ・スクール導入を視野に入れた、家庭及び地域との連携をすすめる。	B					
	積極的かつ迅速・正確な情報の発信と受信	・メール配信や学校HP等を活用した情報の発信を行うとともに、家庭や地域からの声を積極的に生かす。	A					
	成信に努める教職員集団の育成	・全員授業研を実施し、協議会を工夫することで内容の共有化を図る。 ・OJTを生かし、さまざまな内容の学習会等を工夫して実施する。	A	A	研修に積極的に外部講師を招くなど、有意義な学びにつなげることができた。 OJTにおいては、主任・中堅が経験の浅い教員に寄り添って、授業力、学級経営力の向上に努めている。 業務の改善や教職員のタイムマネジメント意識の向上については、教職員一人一人が自覚をもって努力しているものの、まだ十分に改善が図られていない。	A	・よい雰囲気の中、学校経営ができていると感じた。 ・業務改善については、引き続き取り組んでほしい。	・教員間のコミュニケーションを大切にし、互いに授業力、学級経営力を高めていくように、OJTを工夫する。 ★心身ともにゆとりをもって業務ができるよう、引き続き業務改善を図っていく。
	教育公務員としての自覚の醸成	・不祥事撲滅のための研修を工夫する。 ・行事等のスリム化に組織的に対応するとともに、セルフマネジメント意識のもとに業務改善を図る。	B					

【自己評価 A : 十分に達成されている B : 概ね達成されている C : あまり達成されていない D : ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記の A・B・C・D で評価】

※学校関係者の評価は、いただいた評価をそのまま掲載しています